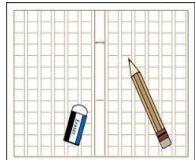




どくしょかんそうぶん 読書感想文を書こう！



読書感想文とは、本を読んで、自分が感じたこと、考えたことを伝える文章です。書くことによって、自分の考え方が深まります。

①本を選ぼう！

・自分のお気に入りの本

(何度も読み返している本や、強く心に残っている本)

・登場人物が、自分と身近に感じられる本

(同じ年くらい。好きなことやスポーツと同じ。似た体験がある)

・ノンフィクション(実際にあった話)

(疑問に思っていることや、知りたいことが書いてある本)



②本を読もう！

・1回目は楽しみながら読もう！

・2回目は心が動いたところにふせんを貼ったり、メモをとりながら読もう。

(「感動した」「共感した」などはもちろん、「すごい！」「知らなかった！」
「ハラハラした」「わたしだったらこうする／こうしない」など)



③書いてみよう！

物語のあらすじにそって順番に書くのではなく、感想文の中心になることを

1つか2つ決めてから書いてみましょう。

〈たとえば〉

・一番心に残った場面やことがら(なぜ自分の心が動いたのか)

・登場人物の生き方や考え方、行動について、自分と比べてどうなのか

・本を読む前の自分と、読んだ後の自分の気持ちの変化など

〈組み立て方〉

中心にすることが決まったら、感想文を組み立てましょう。感想文を「はじめ」「なか」「おわり」の3つで組み立てるのも、ひとつの方です。感想文の中心にすることを「なか」にもってきます。中心が2つある場合は、「なか1」「なか2」というように、「なか」が2つになります。

「はじめ」

〈たとえば〉

- ・本を読んだきっかけ
- ・本を読む前に題名を見て思ったこと
- ・本を読む前の自分の気持ちや生活

など



「なか」

〈たとえば〉

- ・一番心に残った場面やことがら。なぜ、心に残ったのかを説明。
- ・登場人物の生き方や考え方、行動のなかで、好きなところや、自分とてているところ、ちがっているところを考えて書く。
- ・ノンフィクションの場合は、新しく知ったことや、本を読む前に思っていたこととちがっていた内容を書く。
- ・実際に自分で体験してみた感想を書く。

など

たいせつ！

読書感想文で一番大切なのは、
その本を読んで自分(の考え方)
がどう変わったか、です



「おわり」

- ・本を読む前と後で、自分の考え方方が、どのように変わったか。
- ・本から学んだことを、自分の生活のなかに、どのように活かしていくか。

など

④感想文のタイトルをつけよう！



感想文のタイトルは、自分が一番伝えたいことからつけると良いです。

- ・感動したことや、テーマをタイトルにする
- ・心に残った言葉やセリフを題名にする
- ・「なぜ～」「どうして～」と疑問をタイトルにしてもおもしろい。

本を読んで学んだことを短い言葉にしてタイトルにしましょう。内容にあわせて、最後に決めよう。

【令和7年度 読書感想文課題図書】

【低学年の部】

『ライオンのくにのネズミ』

さかとく み雪（中央公論新社）

『ぼくのねこポー』

岩瀬成子（PHP 研究所）

『ともだち』

リンダ・サラ（ひさかたチャイルド）

『ワレワレはアマガエル』

松橋利光（アリス館）

【中学年の部】

『ふみきりペンギン』

おくはらゆめ（あかね書房）

『バラクラバ・ボーア』

ジェニー・ロブソン（文研出版）

『たった2℃で…地球の気温上昇が

もたらす環境災害』

キム・ファン（童心社）

『ねえねえ、なに見てる？』

ビクター・ベルモント（河出書房新社）

【高学年の部】

『ぼくの色、見つけた！』

志津栄子（講談社）

『森に帰らなかったカラス』

ジーン・ウィリス（徳間書店）

『マナティーがいた夏』

エヴァン・グリフィス（ほるぷ出版）

『とびたて！みんなのドラゴン

難病ALSの先生と日明小合唱部
の冒険』 オザワ部長（岩崎書店）